

本時のねらい

タブレット端末 (iPad) を活用し、鳥飼なすの観察を行う。プレゼンテーションソフト (Keynote) を使って観察したことを端的にまとめる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・毎回の観察で写真撮影することを通して、絵で描くことが苦手な児童でも、楽しみながら「鳥飼なす」の変化を記録する。
- ・iPad に観察したことを簡単にまとめる作業を通して、画像の添付・文字の打ち方など基本的な PC・タブレットの使い方を身に付ける。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末 (iPad) ・AppleTV ・電子黒板 ・プレゼンテーションソフト (Keynote) ・アプリ (タイマー)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題をつかむ。 「鳥飼なすの観察しよう」 ○鳥飼なすの観察のポイント〈見る・撮る・触る(嗅ぐ)〉を確認し見通しを持つ。 ○サイドミッション〈水やり・草抜き・小さい葉っぱとり〉を知り、観察が終わったあとも鳥飼なすの成長に注目して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板につないだ AppleTV と iPad のミラーリング機能を使い、iPad の画面を提示して課題を確認する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○半分に分かれて活動を行う。10分交代 【前半グループ】 ・校内の中庭で、鳥飼なすを観察し撮影する。 ・水やり、草抜き、小さい葉っぱとりを行う。 ・教室でプレゼンテーションソフト (Keynote) に観察したことをまとめる。 ・今日はなにをしましたか?・なすのかんさつ・花のかんさつ ・今日の様子はどんなかんじ? ・ナスの葉っぱが大きくなって、せいちょうしている。 ・ナスの葉はさわるとザラザラしていた。 【後半グループ】 ・教室でプレゼンテーションソフト (Keynote) に観察データの日付と今日することの打ち込みを行っておく。 ○観察のデータ入力、終わったら、Keynote 作成に悩んでいる人の手伝いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーを 10 分で設定し、音が鳴ったら教室に戻ってくることを確認し、視覚的に時間の見通しがつけられるようにする。 ・なすの観察ではカメラアプリを用いる。観察したい対象に近づいて撮るように指示する。 ・撮るだけでなく、触れたり嗅いだりして観察することも伝える。 ・Keynote の活用を通して画像の添付、文字の打ち込みなど、基本的な操作の仕方を定着させる。 文字の入力はローマ字入力または、かな入力で、自分の得意な方法を自分で選択して活動する。 iPad への文字入力等に慣れてきた児童にはローマ字入力のチャレンジを促す。ローマ字表が必要な児童には使用させる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○次の時間の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板のタイマー機能を用いて視覚的に時間の経過がわかるようにする。ベルの音で活動の終わりを明確にする。 ・この時間内に終わらなかった場合は、休み時間などに作業しても良いことを伝え、やりきることができるように促す。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 : iPad の画面を電子黒板で提示し、課題を確認する様子



写真 2 : iPad を用いてナスの写真撮る様子



写真 3 : 撮った写真を添付して観察記録を Keynote で作成する様子

児童生徒の反応や変容

- ・iPad を活用した活動は興味関心や好奇心の高い活動から日常的な活動になり、学習ツールとして定着するようになってきた。
- ・毎日のように観察を行うことで、文字の打ち込みと観察の観点、ICT 活用スキルと学習課題の両方の力が少しずつ身についてきている。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・子どもたち自身で、写真を撮り、観察した内容をプレゼンテーションにまとめていく作業は、タブレット端末 (iPad) を活用するたびに慣れてきていることを実感した。「この葉っぱをおさえて」と画像の構図にこだわる児童もいるほど、作品作りに夢中になっていた。iPad を活用することで、文章表現の修正もすぐにできることが最大のメリットである。